社說

京都御滯在

天皇々后兩陛下には去る二月皇太后陛下御大葬の節御奉送の思召なりしに折節兩陛下とも御不例に渡らせられ侍醫の人々より絕て申上げたる儀もありて御不本意ながら御見合せと相成りたるに付き過日の御百日祭に京都の行幸啓を仰出され親しく御祭典を行はせられたる御次第なりと云ふ扨その御式も滯りなく相濟みたるに就ては何れ不日に還御の御沙汰もあることならんなれども抑も陛下には一昨々年より一昨年に掛て凡そ一年の間、日淸戰爭の爲めに廣嶋の行在所に御滯留、日夜軍務の御指圖に御忙はしく殆んど御寢食をも安んぜさせられざる御次第なりしに本年二月には恐れ多くも皇太后陛下の御大喪に丁らせられて罔極の御悲みに沈ませられたる御事なれば況して御不例後の昨今、御心身の御勞りは如何ばかりならんと竊に恐察し奉る所なり左れば今回の行幸は御祭典の御爲めとは申しながら其御式も滯りなく濟ませられたる上は暫く舊都の離宮に御滯留あらせられて御心身を慰ませらるゝも御差支はある可らず素より御服喪中の御事とて別に御出遊等の御娛みはなからんなれども離宮は御降誕の場所にして苑內の泉石草花に至るまでも自から御緣も淺からず朝夕の御逍遙も幾分か御鬱散の御慰ともなる可きは申す迄もなく殊に東京府下にては痲疹流行の餘焰尙は未だ收まらずして昨今患者の數も少なからざる折柄なれば旁々以て御保養の爲めにも然る可きか若しも陛下に於かせられて行幸の御序に離宮の御靜養を好ませらるゝ思召もあらんには吾々は此際一日も御滯在の永からんことを希望し奉るものなり

日露協商

朝鮮政府の露兵雇入事件は遂に沙汰止みと爲りたるよし此事件に就ては單に朝鮮人の主張したるのみならず京城在留の露人中にも陰然慫慂するものありて政府の議に上りたる次第なりしかども彼此交涉の末、目下の場合、朝鮮に多數の兵を貸すが如きは露國本來の眞意に非ずとの事にて中止したるものなりと云ふ或は是れぞ日露協商の效能にして其效能を收めたるは我外交家の働きに外ならず然れども斯る事件の發生したるは協商公文の意味に尙は足らざる所あるが爲めなれば此際更らに明確の個條を規定するの必要ありとて其邊の談判に着手す可しとの議ありと云ふ彼の議定書の第二條に軍隊の組織を朝鮮國に一任する事に關して外援に藉らずして云々の意味は甚だ明白ならず今回の如き事件の始末に就ては更らに明確に規定するの必要もあらんなれば追加の談判も固より差支なけれども抑も是種の協商は一種の事情より發したる一時彌縫の手段に過ぎずして永久に賴む可き性質のものに非ず目下の事情に於ては日本政府が只管穩和を旨とすると共に露國も亦事を好まざる可きが故に或は追加確定の談判も容易に纏まるともあらんかなれ共此始末を以て東洋の平和を維持し得たりなど外交の[illegible]に誇らんとするが如きは一時局に對するの政略としては兎も角も識者の冷笑は免かれざる可し先年の天津條約の如き締結當時の事情は自から明白なるにも拘はらず或る一派の說は該條約よそ東洋平和の基礎を据ゑたるものにして外國人も感服する所なりなど稱道したりき而して實際に於ても今回の日露協商に比すれば其規定も割合に明確なりしかども締結以來の有樣を見れば朝鮮に於ける日本の勢力は殆んど見る影もなきに至りし其反對に支那はます〳〵干涉を逞うして專橫到らざる所なく遂には併吞の野心を現はしたるが爲めに止むを得ずして日淸戰爭の端を開きたるに非ずや或は戰爭に至るまで平和を維持したるは兎にも角にも其條約の效力に外ならずなど云はんなれども支那が朝鮮の內政に干涉して傍若無人いよ〳〵傍觀に堪へざるに立至りしまでの成行は一朝夕の事に非ず其永年月の間に天津條約は果して如何なる效力を現はしつゝありしか我輩の毫も認めざる所なり日露協商の公文とても同樣にして今回彼の政府が貸兵を中止したるは果して協商の規定ありしが爲めなるや否や又今後の規定は將來の紛議を豫防するに足る可きや否やは姑らく擱き其效力の有無は詰り實際の勢力如何に依るものと覺悟せざる可らず左れば今回貸兵事件の中止に引續き更らに協商の新規定を贏ち得たりとするも是れは單に一時を彌縫する目下の小策に外ならず我輩の當局者に望む所は公文以外の手段に在るのみ

○軍艦海門の端艇覆沒

佐世保よりの特報に依れば臺灣に派遣中の帝國軍艦海門は去る八日東港に投錨して若干の陸戰隊は該地の守備隊と連絡を通ぜんが爲め上陸して其目的を達したる後歸艦せんとしたるに偶ま風濤非常に荒く之が爲め不幸にも端艇の一隻は覆沒して左の人々は溺死したるよし尤も谷元大尉の死體は時經て發見したりと云ふ

海軍大尉谷元彥次郞、一等水兵テンシン熊太郞、同原松太郞、三等水兵吉本富八、同富永安吉、四等水兵永地磯衞門、一等主廚三木定吉、二等主廚須山廣太郞

○富士艦と英國雜誌

近着のペル メル ガゼットにテームス造船所に我が新造軍艦富士を觀覽したる記事あり其記述する所左の如し

新に落成したる日本軍艦富士は現時に於ける諸建造物中の大なる見物にして今は艦中に士官水兵を合して三百五十人の乘員を有し專ら回航の時を待てり同造船所（テームス）員の語る所に依れば彼等は多く歐洲の海兵を學ばず靜肅恪勤にして能く其軍用機關の光輝ある所以を解するものゝ如し我等は之を直に我海軍に投ずるに於て更に其不都合あるを見ず唯だ我等の水兵と相違するの點は其軀幹の矮小なると其帽子に奇妙不可思議の文字を記するに止るのみ紺青色セルヂの正服を着して外形すらも我等の水兵と異るなし士官に至りては其服裝少しく我邦のと違へるものあり予は恰も其食事するの時に遭ひて彼等の態を見たるに食物は細長く截みて煮たる肉及び其他にて頗る美味と見受けたり食事終りて彼等の中には倫敦の地圖を引延ばして深く之に見入るものありしが一方には異樣なる小箱の數を取り出し卷紙に更に異樣なる文字を書き付け何事をか[illegible]風の[illegible]を始めるものあり我邦の象棋にも似たるが如し當時は尙は造船所の職人等甲板上に於て勞役中なるが如き姿なるにも拘らず艦內の淸潔なるよ
べきものあり轉じて士官會食室に至りた
爭寫眞の散見する外凡ての躰裁英國軍艦と
予は黃海の戰役に與りたりと云へる士官と
るを得たり今此船を見るに於て英國人の最
は此歐洲競爭の時に當りて日本がカネー砲
にエルスウヰック砲を採用したることなり
搭載武器は悉くアームストロング製にて十
六吋速射砲十門及小武器若干門とす艦の色
にして日本各艦の通色なりと聞く又形は英
ヤル　サヴアレーン號に酷肖して重砲に向
更に堅固なる楯を有せり此楯二個は旣に着
爾餘は今輸送の途に在り煙突は二本にして
ず前部と後部に分在して各帆檣には一個の
火藥は其檣の內部より引き上ぐるを得るな
大部分緊縮鐵を以て構造されども艦內諸部
を用ひ而も其木材の火防されざるは黃海戰
るに於て少しく怪しまざるを得ざるなり左
に於て强速力を有して且つ强大堅固なるは
ば近日を以てエルスウヰックスに於て落成
艦八嶋と相伴ひて露國大平洋艦隊には齒で
物と云ふべし云々

○義和宮殿下渡米の原因

久しく日本に滯在し居らるゝ義和宮殿下に
日本を出發して米國へ渡られ同國に留學せ
て此渡米の原因に就ては不審を懷くもの少
が聞く所に據れば所謂る米國派と稱せられ
李完用、李采淵、徐載弼及び在京城の米國宮
鮮國王に迫りて遂に渡米せしむるに至りた
云々と京城より來信の端に見ゆ

○匪賊大稻埕に來襲せし詳

●●●●●大稻埕の侵入　兼て南港山附近に出沒せる
許は二手に分れ匪魁詹振之を指揮して去る
時三十分頃幾多の炬火に闇を照して大稻埕
來襲して南街の中央を始め富家らしき商家
扉を破壞して亂入し手當り次第に金品を掠
暴狼藉至らざるは無し軍隊警察官等は兼て
來襲の風說ありて其眞僞定かならざれども
を加へ居たる事とて斯くと急報に接するや
繰出して應戰し午前五時頃賊百四人を殪し
へて之を擊退したれば賊は這々の體にて和
仔沚との兩方向に退却せしが血痕に徵す
負傷者は數十名ありたるものゝ如くなりと
●●●●錫口の戰鬪　錫口の憲兵は匪賊が歸途同地
んとするものゝ如く察したれば約一千米突
戒線を張り居たるに午前四時頃其警戒線を
突に於て發見して戰鬪の始まりたる樣子な
[illegible]を出して偵察せしめたるに臺北より派遣
七名と匪賊約二百と衝突したるものなれば
は早速警官に應援して激戰したる末、漸く
しが此時巡査一名戰死し其首級を持去られ
●●●●大龍峒の戰鬪　匪賊の大稻埕より擊退さる
方位に退却したるも此處には已に守備兵あ
を[illegible]ちしかば更に方位を轉じて大龍峒に向
に[illegible]兵の[illegible]め憲兵等も主力